

ひよし 日吉ダム管理開始以来、最大のダム流入量を記録

淀川水系桂川の水資源機構日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、台風18号の降雨により、9月15日2時から16日17時までの総雨量が345mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。

この降雨により、ダムへの最大流入量は、平成10年4月の管理開始以来最大となる毎秒1,694立方メートルとなりました。

この洪水に対して、日吉ダムでは防災操作を実施し、ダム下流の洪水被害軽減に努めました。

※防災操作：大雨により、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的にため込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作。

※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

平成25年9月18日

国土交通省 近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所

発表記者クラブ

京都府政記者室
南丹市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所 所長代理 あらい 新井
住 所：京都府南丹市日吉町中神子ヶ谷68
電 話：（0771）72-0171

国土交通省 淀川ダム統合管理事務所 副所長 よしはら 吉原
住 所：大阪府枚方市山田池北町10番1号
電 話：（072）856-3131

ひよし 日吉ダム管理開始以来、最大のダム流入量を記録

列島各地に被害をもたらした台風１８号により、淀川水系桂川の日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、９月１６日０時から１時までの１時間の雨量が最大３４．５mmを記録し、降り始めの９月１５日２時から１６日１７時までの総雨量は３４５mmに達しました。

この降雨により、流入量が増加し、１５日２２時３４分には洪水量（毎秒１５０立方メートル）に達したため、防災操作を開始しました。

防災操作の概要

	流域平均 総雨量	ダムへの流入量が 最大となった時刻	同時刻における ダムへの流入量	同時刻における ダム流下量	同時刻における ダム貯留量
日吉 ダム	345mm	平成25年9月16日 6時44分	毎秒1,694m ³ （※１）	毎秒148m ³	毎秒1,546m ³

※１：日吉ダム管理開始以来、最大のダム流入量を記録

１６日１０時３２分には、緊急放流操作を開始する水位（２００．２m）に達しましたが、国土交通省淀川ダム統合管理事務所長との調整の結果、ダム下流の状況を考慮して、操作の開始を遅らせました。

１６日１１時２５分には、洪水時最高水位（２０１．０m）を超え、これ以上操作を遅らせると、ダムの安全性に支障が考えられるため、１２時００分に緊急放流操作（※２）を開始し、ダムへの流入量と放流量を同量に近づける操作を行いました。今回は、ダムの洪水調節容量以上に洪水を貯留し、下流の河川水位の低減に努めました。

※２：緊急放流操作

日吉ダムでは、下流河川の改修にあわせて暫定的に２０年に１度の確率でダムに入ってくる洪水を溜め込む治水容量に対して、更に上回る規模の洪水が発生した時に流入量と放流量を同量に近づける操作です。

今回の防災操作により、ダム下流の保津橋地点（ほづばし 亀岡市保津町下中島地先^{かめおかしほづちようしもなかじま}）では、約１．５mの水位低減効果があったものと推定され、ダムがなかった場合には、ダム下流域での浸水被害が更に拡大していたものと想定されます。

保津橋地点の水位低減効果

保津橋地点の河川水位が 最高水位となった時刻	同時刻における 保津橋地点の河川水位	ダムがなかった場合 の同地点の最高水位	水位低減効果
平成25年9月16日 7時40分	6.82m	8.31m	1.49m

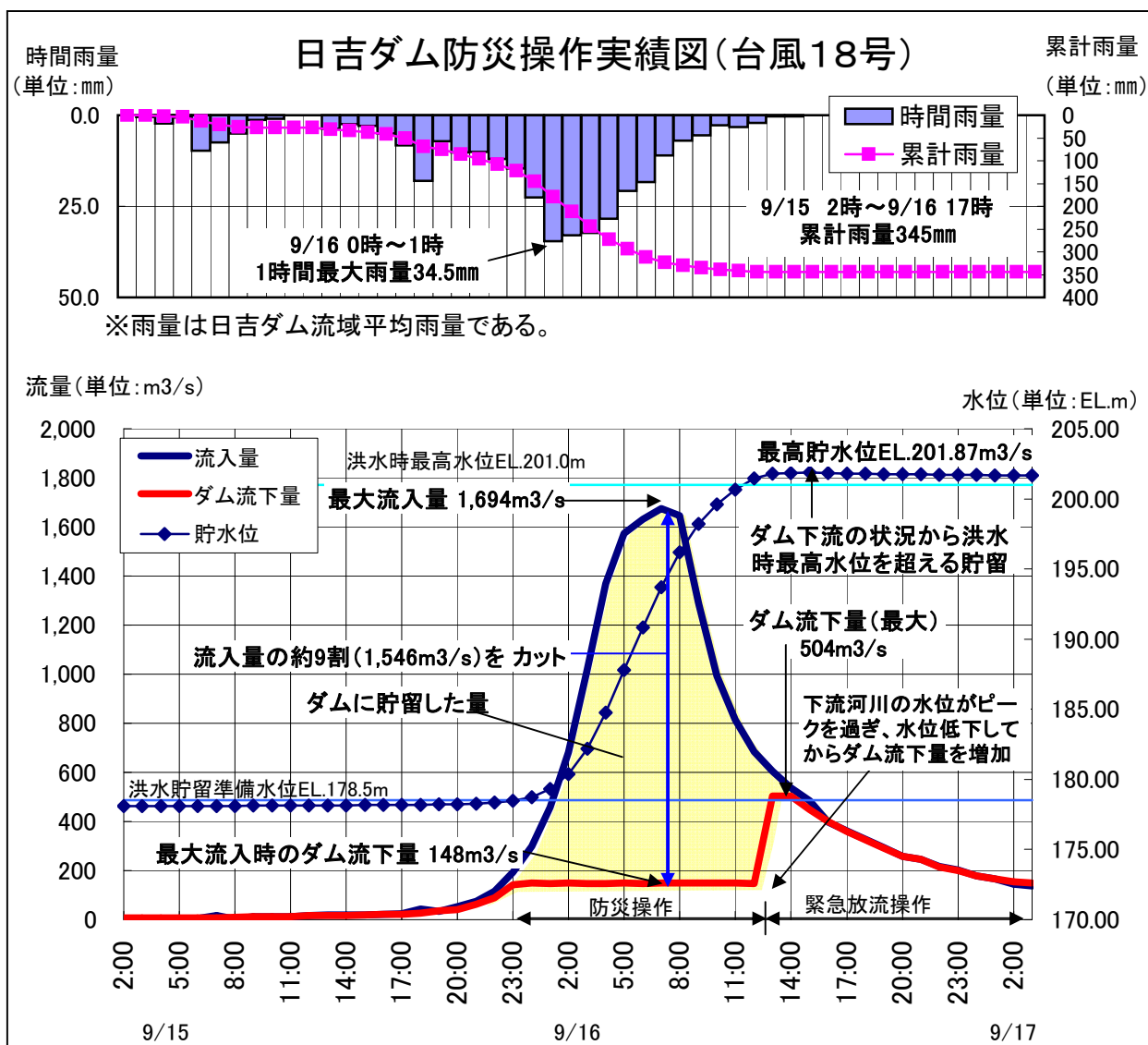
日吉ダムでは、今後もダムの効果が最大限に発現できるよう努めて参ります。

位置図



台風18号の降雨に伴う日吉ダム防災操作について

・日吉ダム管理開始以来、最大のダム流入量を記録



(参考)

管理開始(平成10年4月)以降の主な出水の記録

順位	出水名	総雨量 [mm]	最大流入量 [m³/s]	ダム流下量 (最大)[m³/s]	最大流入時の 貯留量[m³/s]
1	平成25年 9月 台風18号	345	1,694	504	1,546
2	平成16年10月 台風23号	238	856	150	708
3	平成22年 7月 梅雨前線	170	698	150	549

※ 管理開始(平成10年4月)以降の出水で、最大流入量が多い方から3番目までを記載しています。

日吉ダム管理開始以来、最大のダム流入量を記録

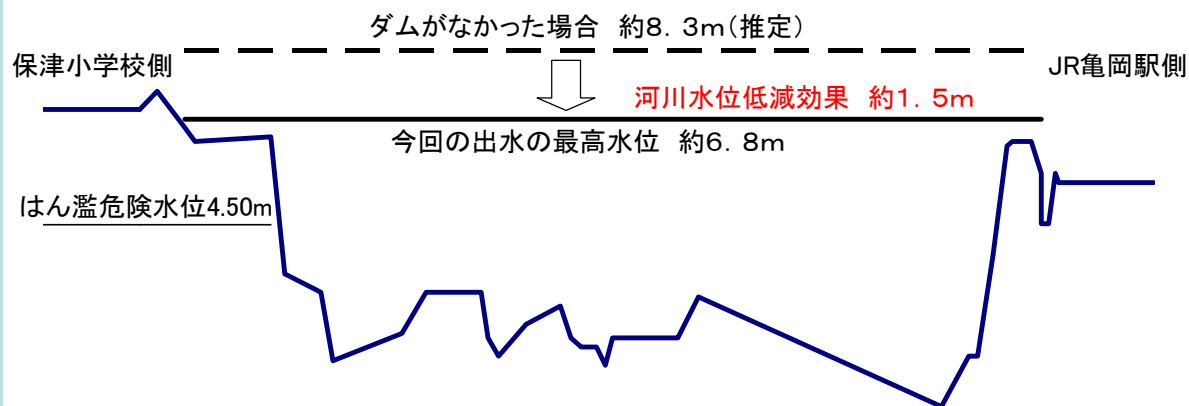
台風18号の降雨により、9月15日より桂川の水量が増大し、日吉ダム管理開始以来最大の流入量（毎秒1,694立方メートル）を記録しました。日吉ダムでは、洪水時にダムに貯留することができる洪水調節容量以上の洪水を貯留し、京セラドーム37杯分（4,455万 m^3 ）に相当する水をダムに貯め込むことによって、桂川（保津橋地点）の水位上昇を約1.5m低く抑えました。ダムがなかった場合には、浸水被害が拡大していたものと想定されます。



京セラドーム※37杯分に相当する水を日吉ダムに溜め込み、少ない量を放流することで下流の河川水位上昇の低減に努めました。（※京セラドームの容量を120万 m^3 として算出）



保津橋地点(保津川下り乗船場付近)での水位低減効果



保津橋地点水位

